

竹ノ内街道の歴史

竹ノ内街道は、大阪府太子町から奈良県葛城市の竹内峠を通じ、古代の横大路につながる古道です。歴史上、『古事記』において、履中天皇(四〇〇年即位)の頃、河内から大和に越す時に通った「当岐麻道」が竹内峠と推定されています。竹ノ内街道の周辺では縄文・弥生から古墳時代までの遺物や遺構が複合して発掘されており、紀元前二七〇〇年位から人が住んでいたことがわかります。豊富な清水と狩猟に適した山野と石器を作るサヌカイト原石に恵まれた集落社会を形成していたと想定されます。

『日本書紀』には推古天皇二年(六二三年)の条に「難波より京に至る大道を置く」と記されており、日本最古の国道(官道)の一部として重要な街道でした。

和銅三年(七一〇年)に都が平城京に移るまでの間、竹ノ内街道はさまざまな歴史を刻んでいます。この街道を利用し、遣隋使や遣唐使、渡来人が往来し、さまざまな大陸文化をもたらしたのもおそらくこの街道だったのだでしょう。

徳治二年(一二三〇七年)には、峠に「うぐいすの関」(関所)が設けられたとも言われています。また、戦国時代天正十年(一五八三年)信長

本能寺の変の時、徳川家康が堺から伊勢へ脱出する際に密かに逃げ通ったという説もあります。

江戸時代になり、「お伊勢参り」や「山上参り」の街道として盛んに利用され竹内の村は宿場として賑わいました。貞享元年(一六八四年)の秋に、松尾芭蕉が門弟である竹内出身の千里の案内で訪れ、その後幾度か来訪、滞在しています。芭蕉はその時のことを紀行文「野ざらし紀行」で「綿弓や琵琶になぐさむ竹のおく」と詠んでいます。

寛政七年(一七九六年)四月、小林一茶が竹内峠から大和三山を俯瞰して、「遠方や青田の上の三つの山」と詠んでいます。

嘉永六年(一八五三年)、吉田松陰が竹内峠を越えて、五條の儒学者森田節齋、八木の国学者谷三山を訪ねたのもこの街道でした。

また、時空の旅人と言われる作家司馬遼太郎(一九三三―一九九六)が少年期を過ごした母の里であり、著書『街道をゆく』で竹内の景色を「大和で一番美しい」と語っています。二上山やこの山に入る夕日、樹叢に埋もれてかすかにうかがえる当麻寺、小さく点在する白壁の家のある風景などを「涙腺に痛みを憶えるほどに懐かしい」と、この竹ノ内街道に特別な想いを抱いていました。

(この文章は、綿弓塚の資料館にある解説文から引用しています)

身粉峠 峠の故事

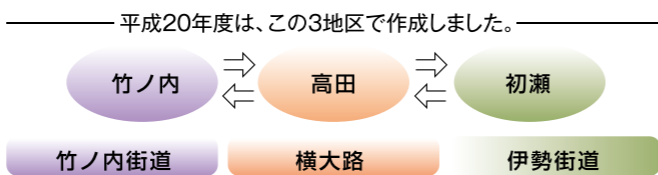
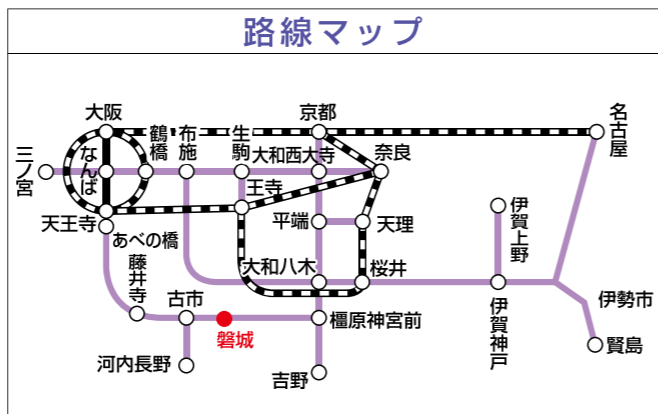


十一面観音菩薩像(別名・身粉観音像)

竹内峠は、別名を身粉峠と呼ばれています。その由来となった十一面観音菩薩像(別名・身粉観音像)は、綿弓塚の西南にある西光院の本尊として祀られています。

戦国時代の天文7年(1538年)、長谷寺の観音を彫るため、竹内峠を越えて楠の大木が運ばれましたが、峠付近が急坂で狭いため梢の部分の切り落とし、無事に長谷寺まで運ばれました。

その梢の一部を粉いで造りあげたのがこの像だといわれています。



協働によるマップづくり
 ■このマップは、「竹ノ内街道保存会」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(奈良県)」が協働で作成しました。
 ■平成21年(2009年)3月発行
 ■問い合わせ先:
 竹ノ内街道保存会 (TEL 0745-48-2204)
 奈良県地域デザイン推進課 (TEL 0742-27-7515)

最古の官道

たけのうちの

竹ノ内街道



野澤 寛 画

最古の官道 竹ノ内街道

たけのうちの



A 大和三山遠望

畝傍山、天香具山、耳成山の三山を見渡す。

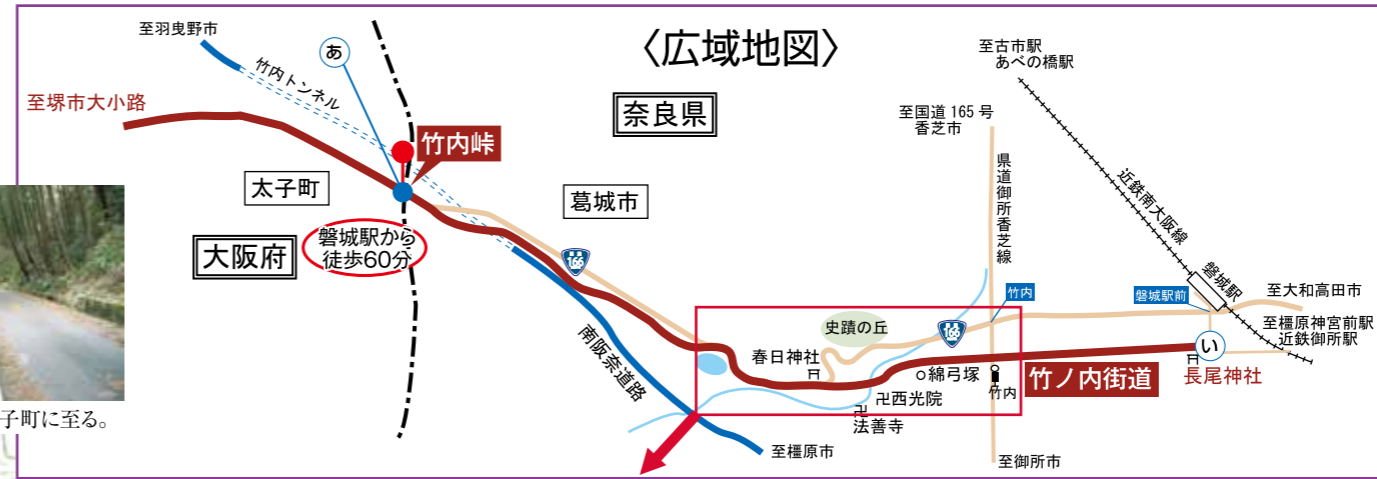


B 二上山眺望

雄岳、雌岳二つの峰が並びたつ。



㉞ 竹内峠 太子町に至る。



〈広域地図〉



磐城駅から峠まで徒歩60分



竹ノ内街道

磐城駅から徒歩20分 至長尾神社



㉞ 長尾神社

創祀は定かではないが、貞観元年(895年)にはこの地に鎮座したと記されている。長尾、竹内、木戸、尺土、八川の五ヶ村の郷社。祭神は「記・紀」に出る井冰鹿(井光)であるが、社伝では竹内の三石の地にあった三角磐に水光姫命が白蛇の姿で降臨したと伝えられる。拜殿は昭和11年新築で単層入母屋破風掛造瓦葺。



㉟ 綿弓塚

民家を改装した記念館。松尾芭蕉が「野ざらし紀行」の旅の折り、竹内に詠んだ「綿弓や琵琶に慰む竹の奥」の句を記した句碑。建碑は文化6年(1809年)。



① 道標

文政13年(1830年)に竹ノ内街道と平石峠越えの分岐点に建てられた道標。刻まれた文字は、正面「右 大坂さかい 上太子 ミち 左 かう貴寺 もりや」。右は竹内峠越え、左は南河内郡河南町にある寺のこと。左面「文政十三寅」裏面「すく大峰 よしのいせはせつばさか」



③ 御所柿の古木

御所柿は味がよいことで知られ、正岡子規が奈良で食べて歌に詠んだのも御所柿と言われている。病虫害に弱く収量も少ないことから、近年はあまり見られない。



⑤ 西光院東石積の亀甲石

亀甲石は石の表面に亀の甲羅に似た文様が有り、吉兆を現すと珍重された。竹ノ内街道と熊谷川が交差する中橋より上、春日若宮神社より下の狭い範囲で出土。



⑤ 西光院の木造地蔵菩薩立像

重要文化財。平安時代後期(11世紀)の制作と見られ、平安時代初期の檀像風の様式をひくものと見られる。



⑥ 水路沿いの「洗い場」

昭和30年代ごろまでは、集落内を流れる水路を利用し、野菜や食器を洗っていた。そのため各戸の前には、水面に近づけるよう石段があった。



⑦ 河村家住宅

18世紀半ば頃の建築と見られる。桁行6間、梁行4間で建築当初の型を良く残している。代々醤油屋を営んでいた。



⑨ 道標

北は當麻寺、南は隣村の兵家を経て高野山に通じる。

⑩ 下の地蔵

地蔵東側には大峰詣りの常夜燈もある。



② 岩角の地蔵さん(首なし地蔵)



④ 孝女 伊麻 旧跡(法善寺)

伊麻は寛永元年(1624年)の生まれ。貧困の中、病に斃れた父のために好物のウナギを求めていたら夜中に川から汲んだカメの中にウナギが入っていて、父に食べさせたところ病が快方に向かったという。この孝行が幕府の耳に入り褒美を貰い、「本朝二十四孝」の一人と称えられた。



⑪ 鍋塚古墳

5世紀前半の築造と考えられる円墳。直径46mで円墳としては周辺では最大規模。試掘では円筒埴輪の破片が出土。

0m 50m 100m
地図の上の1cmは約28mです。